



KEIKO REIKO AYA HARUM

小説『傲轟GOSEN』組み紐こたえ合わせの書
読み手は何を読み・書き手は何を書いたのか



本稿の使い方
近しい本稿を
本編と本稿を
Dとしていた
だきし
を記入しつえ
愉しむ為の書
回しは後ろ頁
作・飛鳥世

目次

予告 1

小説書きがイメージした画家目線 1

予告

本の読み方は人それぞれだ。ただし、その人それぞれが「本を読めなくしている」という一面も見落とすべきではないだろう。書き手が思いを込めて書く、読み手がその思いを啄ばみ読み散らかす。そんな読書も楽しい。であれば、答えを用意しておくのが書き手の努めでもある。本編が書き上がり然るべきタイミングが来た後にアップしたい「こたえ合わせの書」である。

宜しければPegooのPDF版をDLして、設問に貴方の答えを書いて楽しんでね

この書のリリースは少し遅くなる。数カ月ほど遅れるだろう。

実際のところ、小説が書き上がってから二カ月ほど後からの執筆になると思う。

本編のリリースも多分そのぐらいはズレるのかな。

お楽しみにしてくださいね。

飛鳥世一

小説書きがイメージした画家目線

令和八年三月十五日 二十一時三十分

小説『傲蠱 GOSEN』が脱稿校了した。

三百三十枚の長物。余裕で十万字越えは、中編目一杯だろう。

ただ、読み疲れはしないと思う。

捏ね繰り回したまだるこしい表現は控えめにしているつもりだ。

兎に角、汚らしいものにはしたくなかった。

可能な限り私の考える「美」を耽美に置き換えたかった。

これは誰でも感じられることだから書いてしまうが、大衆文藝の体裁を借りながら、サスペンスとミステリーを感じさせつつ完璧な純文学的、大衆小説というわけのわからない作品に仕上げている。まあ、取っ散らかっているのである(笑)

ただ、この小説、読み手によって残るものは千差万別であろう。

奥は浅くない。

情事のシーンは全部で四回出てくるのだが、「またか……」となることは無いだろう。

まあ、読まなくば分らないのだが、ポルノにはなっていないと思う。

楽しみ方のひとつと云うことではあるが、メタファ、アレゴリー、アトリビュートの置き方と、その回収という処は是非面白がって読んでみてもらいたい。

「ああ〜こういう回収のさせ方してるのね」「こういうおき方してるのね」この辺を愉しみ乍ら読むだけで、ページは進むだろう。

小説の本稿をアップした時点で、この「こたえあわせの書」をアップしたいと思っている。少しずつこむと思うが、その時までどうか楽しみにお待ち頂きたい。

今回、三百三十枚を壊すことなく、途中で投げることなく書けたことは大いなる勉強とすることが出来た。さて、まずはここから停まっている作品に手をつけ、書き上げてから次の作品に向き合ってみたい。

日頃から応援頂ける皆さんに心より御礼申し上げます。

小説「傲轟GOSEN」組み紐 きたえ合わせの書

著 者 飛鳥世一(辻話人〔フル〕)

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
